

第6回 健幸登山教室

鈴鹿国定公園 藤原岳日帰り登山 (大貝戸道往復)

登山日：2021年9月12日(日)

参加者：松下支部長、友の会会員(上野・中沢・仲井)3名

記録者：仲井照雄

午前9時 三岐鉄道西藤原駅前にて全員集合する。ここは三重県いなべ市になり、関西では馴染みのない私鉄の駅だ。小型機関車や客車がホームに停車している。近くのセメント藤原鉱山より石灰石を搬出しているという。来る途中、藤原岳の東斜面が大きく岩肌が見えていたのは、石灰石の採掘のためだったのか。

松下支部長より、2万5千分の1の地図を配付される。本日の登山教室の目的である読図に慣れること、頻りに磁石を使い現在地を確認することや、吸血のヒル対策の注意点を受ける。気になる今日の天気予報は、南から流れ込む湿った空気の影響で、終日曇り空という。ここから見上げると、稜線より上方は灰色の雲が一面に広がっており、晴れそうもない。

午前9時20分 藤原岳登山口休憩所まで歩く。松下支部長が登山ポストに登山届を提出する。隣接する無料駐車場はロープが張られて利用できない。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で不要不急の外出自粛を促すためだろう。2, 3の登山グループが我々より先に出発する。神武神社で、登山の安全を全員で祈願する。登山口に神社があるのは、珍しいことではないようだ。伊吹山の正面登山口の神社を思い出した。さらに鳥居を潜って石段を登る。ここからは、それまで着けていたマスクを外す。口の周りの蒸れがなくなり、さっぱりする。

午前9時40分 スタート地点の登山口(標高約200m)に到着 藤原岳山頂(1,140m)まで約950m登る。最初は緩やかな登山道が続き、樹林の中を歩く。

午前10時25分 3合目に到着 この辺りから等高線が密になり、息が荒くなる。周りの針葉樹林と広葉樹林が、2万5千分の1の地図にも区別されて印が付いている。ごつごつした人の膝位の高さの小岩が登山道沿いになり、避けるように歩く。人の拳大の大きさの白い石があちこち転がっている。石灰石だ。石灰石は、海底のサンゴ礁の堆積物が長い年月をかけて隆起したものだ。今、目にしていることが不思議な気がする。時間の途方もない長さ、地中のエネルギーに圧倒される。

午前10時40分 標識「藤原岳 表登山道 四合目」に到着 1合目毎に標識があり、道も整備されている。四合目は平らな広場だ。休憩に適した座れる椅子があり、小休止をとる。気温は27℃位(予想)だが、湿度が高いため、体感はそれより暑く感じる。水分補給をする。

午前11時5分 5合目に到着 松下支部長が、登山道沿いの土が、細長くに盛り上っているのを発見する。ミズを食べるモグラの仕業という。杉林を通過する。

午前 11 時 40 分 7 合目を通過 左側の斜面に出る。松下支部長より、こういう箇所ですと滑落すると、脊椎損傷や死亡を招くとの指摘があった。登山道は昨日の雨のせい、濡れており、所々滑りやすい。2 万 5 千分の 1 の地図と磁石を使って、現在位置を確認する。周りの谷筋や山と地図を照合する。

正 午 8 合目（標高約 800m）に到着 藤原岳のもう一本の登山道の聖宝寺道と合流する。2, 3 人のグループに出会うが、コロナ禍のためか登山者はそれほど多く見られない。もみじの木々があり、紅葉の季節は今と違った景色になるのだろう。木々の間から下方を見下ろすが、雲のため田畑や集落が見えない。ここから藤原山荘まで急な我慢の登りが続く。しばらくすると、上方に山と空の切れ目らしい稜線が近づいてきた。

午後 0 時 40 分 9 合目に到着 樹木が減ってきて、下草が広がる。大きな岩があちこち散らばっている登山道を進む。やっと登りは終わり、稜線に出た。

午後 1 時 15 分 藤原山荘に到着 避難小屋だ。天気の悪いときは助かる。屋内は幾つか長机が並んでおり、1 時間程昼食とする。近くにバイオのトイレが設置されており、標識や整備された登山道等々配慮が行き届いている。外では他の登山グループも食事休憩をとっている。藤原山荘周辺は、なだらかな台地状である。樹木はさらに減り、下草や苔が中心となる。石灰石があちこち点在するカルスト台地だ。この辺りに樹林帯がないのは、石灰石の地層と関係があるのか。朝から曇天が続く、雨が落ちてきた。松下支部長より、目印の少ないこうした地形でホワイトアウト（濃いガス状）に遭ったら、動いたら危険との注意があった。ここから見上げる藤原岳は小山のようだ。山頂を目指す。

午後 2 時 30 分 藤原岳山頂の到着 晴れたら伊勢湾や名古屋市が見えるらしいが、雲に遮られて見えない。2 万 5 千分の 1 の地図で、北西の天狗岩を確認する。「藤原岳 標高 1140m」の標識の前で記念写真を撮る。予定より遅くなった。

ここから登ってきた登山道を下山する。9 合目を過ぎた辺りで、3 頭程の鹿に遭遇する。「キューン」という大きな警戒音を立てて樹林の中を逃げて行く。70m 位先で立ち止まり、振り返りじっとこちらを見つめている。1 頭は背中に白い斑点があるバンビだ。こちらを見つめているは母鹿か。

午後 4 時 8 合目到着 ストックを使い、慎重に歩く。足が疲れる午後の下りは転げやすいので、要注意

午後 4 時 50 分 4 合目到着 下ってくると、暑く感じる。樹林帯に入り、暗くなる。

午後 5 時 40 分 藤原岳登山口休憩所に無事戻る。